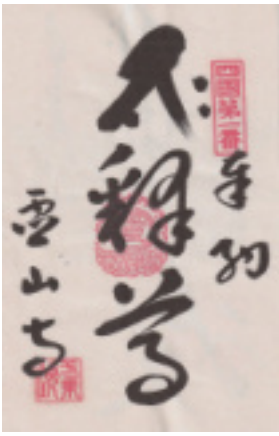
四国八十八ヶ所 歩き遍路

遍路道歩き

田中　純子

丸亀市では四国八十八ヶ所の巡礼をする「歩き遍路」の人をよく見かけます。せっかく香川県に住んでいるのだから一度は歩き遍路を体験したいと思っていました。幸いにアウトドア専門店が「頑張らない遍路道歩き」の募集をしていました。

月に一回目的地までバスで行きそこから一日約二十五キロ歩いて次々と参拝し歩行終了した地点からバスで帰ります。服装は白装束に金剛杖でなくても自由でお参りも強制ではありません。二〇一二年四月に徳島の一番札所霊山寺から始まり遍路道への第一歩が始まりました。



一番札所　霊山寺

タイトルに惹かれて決めし「頑張らない遍路道歩き」にこれから四年

歩き遍路は個人では自信がなく諦めかけていましたがこのタイトルを見て決心しました。

それぞれの想いに歩く遍路道二十余名が結願目指す

参加者は退職した人や現役の人達四十代から七十代までの二十数名とスタッフ三名でスタートしました。参加した動機はさまざまでしたが回を重ねるごとに親しくなりました

銭を出し遍路転がしの難所行くそんな自分が可笑しくもあり

十二番焼山寺は山上にある「遍路転がし」と言われる難所で丸一日かかります。厳しい登りが三度あり特に下りは緊張しました。

トンネルを抜ければそこは高知県バンザイ叫ぶ歩き遍路は

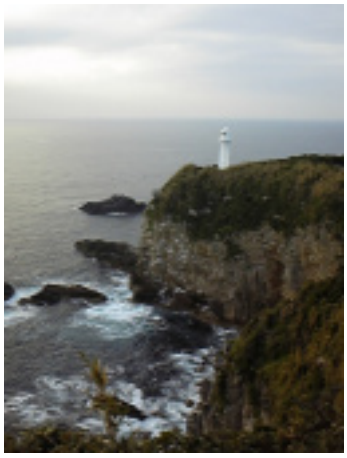
沈下橋を渡る　徳島

二〇一二年四月に歩き始めて翌年の三月やっと徳島の二十三ヶ寺が終わり高知県に入りました。長いトンネルも多く、中々先の見えない一年を長く感じていたので皆で「ばんざい！」と叫びました。

猪が掘り起こしたる足跡の土を踏みつつ下る遍路道

歌声はハーモニカに乗せ響きあう峠を越えて日だまりの中

昼食は山の中で丸太に腰掛けて食べる事もありました。ハーモニカの得意な人が童謡を吹いてくれて、それに合わせ合唱しました。


足摺岬

黙々と地図の形に歩み来て足摺岬の先端に立つ

高知県に入ると室戸岬から太平洋沿いをひたすら歩き、一日中歩いても札所のない月もあり、足摺岬の三十八番金剛福寺に参拝したのは一年後でした。

何度か高知名物「カツオのたたき」を食べる楽しみもありました。

接待の巾着の中あめ玉とティッシューつがしのばせてあり

道中では、さまざま人からお接待を受けました。遍路小屋でお茶やお菓子、季節の果物をまで用意してくれました。

あるお寺の境内では、ボランティアの人達が手作りの色とりどりの巾着を準備してくれていて、一つで二度嬉しいお接待もありました。

今までに無き急登のへんろ道あえぎあえぎつ結願の道

さらに一年かけて愛媛の二十六ヶ寺に参拝し香川県へと進み、徳島の一番札所から四年半、十一月六日いよいよ遍路も最後の区間、八十七番長尾寺から結願の寺八十八番大窪寺に向かいます。歩くこと約十八キロ、最後の難関を越え、大窪寺に参拝出来た時は込み上げるものがありました。この日の参加者一人一人に「結願証」が授与されました。

88番札所大窪寺　念願の結願証

荘厳な空気漂う高野山弘法大師のお食事運ばれる

四国巡礼が終わり十一月末、弘法大師の御廟がある高野山奥の院へお礼参りです。和歌山県九度山慈尊院から奥の院まで二日間で約二十六キロ歩きました。宿坊に泊まり朝のお勤めの後、金剛三昧院から奥の院へと向う途中に弘法大師のお食事が運ばれるのが見られました。

この日はあいにくの雨でしたが、奥の院でお参りを終えると清々しい気持ちでいっぱいでした。

高野山　お礼参り

四年半を共に歩いた仲間達とは、一泊で新年会をしたり、年二回は食事会をするなど今でも交流が続いています。

作者紹介
昭和41年天草高校卒業（高18回卒）
香川県丸亀市在住

今年も、高18回卒の田中純子さんに素敵な短歌を散りばめた原稿をいただきました。貴重な「歩き遍路」の紀行文です。四国八十八ヶ所巡りをやりたくなった人もいるのではないでしょうか。